



見沼小だより

令和4年度 第3号
令和4年6月1日発行
TEL 048-663-7342

<https://minuma-e.saitama-city.ed.jp/>

めざす児童像 世界と向き合い、ゆめをもち、発信力のある子

続・砂糖と塩

校長 佐藤 俊夫

すっかり陽も長くなり、早いもので今月21日(火)には夏至となります。5月には、季節外れの暑さが続き、これから迎える本格的な夏の到来を心配する、今日この頃です。

昨年度の学校だより第3号で私の氏名「さとうとしお(砂糖と塩)」について紹介しました。すぐに覚えていただけるこの名前は、今ではとても気に入っていますが、小学校中学年の頃は、自分の名前がよくからかわれたため、大嫌いだった、という話です。

さて、今回は、私がいじめの加害者になってしまった経験です。小学校2年生の頃だったと思います(「砂糖と塩」より前の話です)。A君というとても仲の良い友達がいました。彼とは毎日のようによく遊び、一緒にいることがとても楽しく、一番の仲良しでした。ある日、A君が、学校に眼鏡をかけてきました。小学2年生の私は、物珍しさもあって、何の悪気もなく「メガネ〇〇って新しいニックネームが増えるね」と言ってしまったのです。馬鹿にするとか、本当にそのニックネームで呼ぶとか、そういうことでは無く、本当に軽い気持ちでした。A君は平然としていましたが、当然、かなり傷ついていたのです。数日後の放課後、A君といつものように遊んでいると、A君のお母さんから「なんで、あんなひどいことを言ったの?」と強い口調で叱られました。突然のことで初めは何のことかわからず(その程度の意識だったのです)、「きょとん」としていたのですが、よその家のお母さんに突然、強い口調で叱られたことで、怖くなり、どうしてかわからず、謝ることも出来ず固まってしまいました。夕方、私の母にも連絡が行き、母と一緒にA君の家に謝罪に行きました。A君は初めて学校に眼鏡をかけて行く日の数日前から、ドキドキしていたそうです。そしてA君の母親は、よりによって仲良しの私から心無い言葉を言われたことを知り、思わず強く叱責したのだと思います。

悪気がなくても相手を傷つけてしまうことがあります。小学校2年生の私は正にそうでした。叱られて初めて気づき、何度も「ごめんなさい」と謝りました。私は本当に未熟でした。相手の気持ちを押し量る「想像力」に欠けていました。精神的に未熟な時期には、往々にしてこういったことが起こってしまいがちです。

さて、その後の2人はどうなったでしょう。また元通りの仲良しの2人に・・・という訳にはいきませんでした。どこかお互いよそよそしくなり、少なくとも私は、彼とは一定の距離を置くようになっていました。それは、A君の母親から突然、強く叱られたことが関係していました。ひょっとすると、A君も私のことを本当は許してはいなかったのかもしれない。何れにせよ、A君と以前のようにいつも一緒、という関係ではなくなりました。

今思えば、この件について、担任の先生から指導を受けた記憶がありません。もしあの時、先生が間に入っていただければ違った結果になったのかもしれない。担任の先生であれば、私も、どうしたらいいかわからず固まる、なんてことにはなりませんでしたし、しっかりと話を聞いてもらい、適切に指導を受け、お互いが納得した形で、丁寧に謝罪ができたのではないかと思います。

私は、学校での人間関係で起きた出来事は、学校が中心となって解決に導いていくべきだと考えています。ですから遠慮なく学校を頼ってください。子どもたちは今後、地域の中で何年も過ごしていきます。素敵な関係性が育めるよう、今後も、保護者、地域、関係機関と連携して適切にいじめの問題に対応してまいります。

6月は「いじめ撲滅強化月間」です。ご家庭でもいじめについて話し合っただけであれば幸いです。